

—はるかなる千年の歴史—

## 平戸・松浦家名宝展

松浦家は、平安時代の末に長崎県平戸市周辺の領主として記録に登場し、それから今日まで連綿と続いてきた旧家である。有名な松浦水軍を率いて源平合戦、元寇、南北朝の動乱を戦いぬき、桃山～江戸時代初期にかけては南蛮・オランダ貿易をおこない、平戸の黄金時代を築きあげた。また、江戸時代にはいっても学芸大名として知られる松浦清（静山）など、ユニークな人材を輩出し、明治にいたるまで平戸六万石の領地を守りぬいたことは特筆される。

同家に秘蔵されてきた文化財は、昭和30年（1955）、平戸に設立された財団法人・松浦史料博物館において一般に公開され、現在にいたっている。本展は、同館所蔵品中の名品125件に平戸市所蔵品などを加えた147件を展観し、平戸以外の地ではじめて、平戸・松浦の悠久の歴史と文化を体系的に紹介した。



※この図録は現在当館では扱っておりません。

会期／平成12年10月7日（土）～11月26日（日）

会場／特別展示室1、南蛮美術館室、特別展示室2

主催／神戸市立博物館、松浦史料博物館、朝日新聞社

開館日数／44日

入館者数／16,985人

出品件数／約190点